

「子グモの観察(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

(6) 小さな生物の透過光での撮影

クモに限らず、小さな生物は体が透明、または半透明のものが多い。そのような生物を光学顕微鏡で撮影する場合、透過光のほうが適している場合もある。



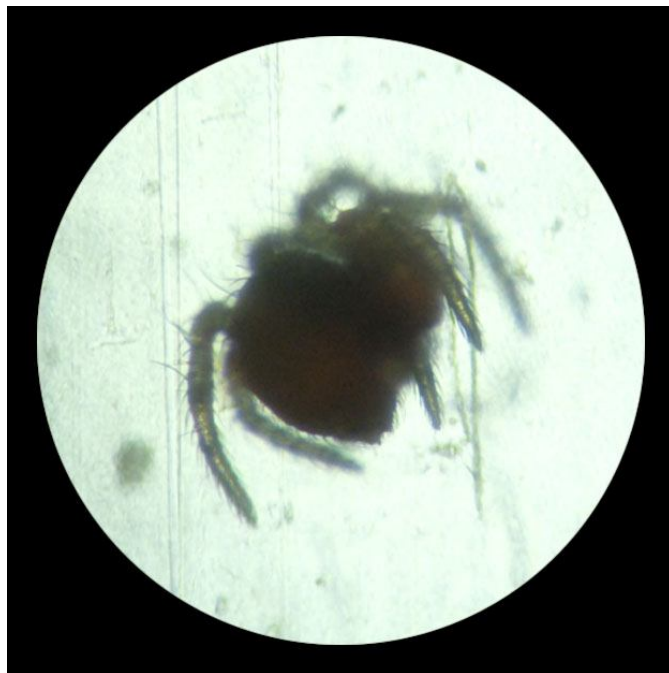
上写真は、ケンミジンコの「ノープリウス幼生」である。このような小さな生物は体全体が透けて見えるので、観察・撮影するには、透過光(この写真ではLED光源装置)のほうが適している。



「究極の透過光撮影」はこの「ケンミジンコの抜け殻」だろう。厳密には「生物」とは言えないが、完全に透明なので、透過光で非常に美しく見える。

(7) 子グモを透過光で撮影すると

オオヒメグモの幼虫(子グモ)も、体が透き通っているので、一見透過光の撮影が適しているように思える。実際に試してみた。



意外にも成績が悪く、非常につまらない写真になってしまった。立体感はある、「クモ」ということはわかるが、シルエットになってしまい、透過光独特の美しさがまったくない。

(8) 透過光と反射光をミックス

こういう場合、透過光と反射光をミックスすると、良い成績になることがある。上写真がその撮影方法での「作品」だ。クモの行儀は悪いが、立体感と透明感を両立している、なかなか面白い出来である。

